

熱戦初のタイブレーク

2020年夏季東西都高校野球大会は19日、9球場で1回戦の28試合があった。雨で順延していた西大会もダイワハウススタジアム八王子などで開幕した。

高校野球 2020 独自大会
主催/都道府県高野連 後援/日本高野連・朝日新聞社

東大会では、神宮球場で今大会初となるタイブレークが適用され、紅葉川が西大会では府中市民球場で、今大会初めての時間制限に伴う試合終了があり、杉並工が練馬工を破った。

20日から3日間は試合がない。23日は1回戦27試合が行われる。

十回均衡破った一打

紅葉川—成立学園

紅葉川—成立学園戦は、今大会初のタイブレークでの決着となった。無死一、二塁から始めるタイブレーク制は、夏の大会では一昨年から延長十三回以降に導入された。今大会はさらなる時間短縮のため、延長突入と同時に採用している。両チームの先発が息詰ま

る投手戦を演じた。まず成立学園の田中大智(3年)がみせた。三回表に2安打と死球で無死満塁のピンチを背負ったが、後続を抑えて本塁を踏ませなかった。その裏、紅葉川の石田北飛(3年)も1死二、三塁のピンチを切り抜けた。八回を除き、九回まで毎回得点圏に走者を背負ったが、粘りの投球でスコアボードにゼロを重ねた。ともに無得点で迎えたタイブレークの延長十回。先攻の紅葉川は犠打で送って1死二、三塁に。八回に代打で出た友清健太(2年)に打順が回った。前の打席はボール球に手を出し、空振り三振に倒れている。同じスライダーだった。「犠飛のつもりで打った」という打球が左翼へ飛んだ。2点二塁打。右手を突き上げ雄たけびを上げた。



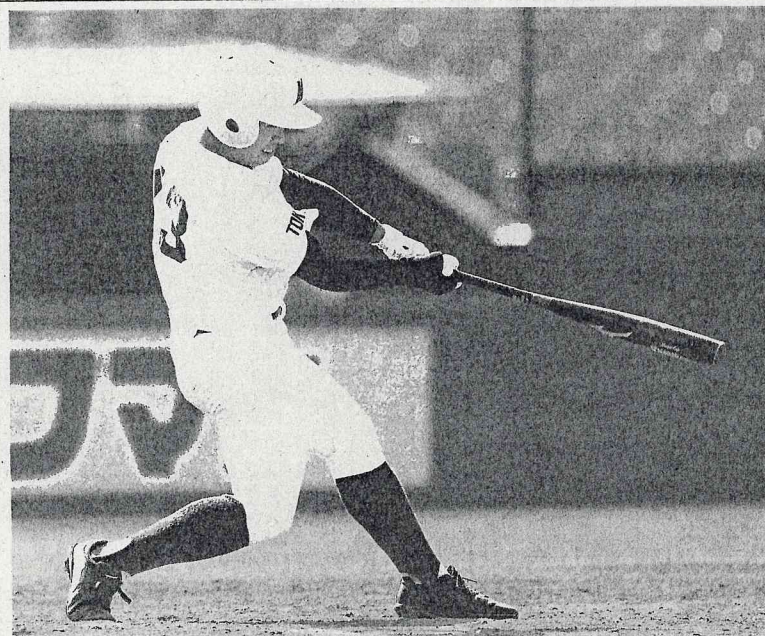
紅葉川—成立学園 十回表、勝ち越しの適時二塁打を放つ紅葉川の友清—神宮、瀬戸口翼撮影

紅葉川—成立学園 七回裏、成立学園の和田虎二は二盗に成功。遊撃手松本—神宮、瀬戸口翼撮影

紅葉川、タイブレーク制す

都高校野球大会、東西28試合

今夏の甲子園大会、地方大会の中止を受けて都高野連が主催する2020年夏季東西都高等学校野球大会は19日、東京都で13試合、西東京で15試合の1回戦が行われた。大会初のタイブレークとなった紅葉川—成立学園は、紅葉川が延長十回に5点を挙げ勝利した。



チーム	1	2	3	4	5	6	7	8	9	延長	合計
紅葉川	0	0	0	0	0	0	0	0	0	5	5
成立学園	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3

【都宮駒沢】
日大—400 100 0 4 9
国際—000 100 0 0 1
(七回コールド)

【神宮】
▽1回戦
九段中教校—000 000 0
明大中野—252 4X13
紅葉川—000 000 000 55
成立学園—000 000 000 33
(延長十回タイブレーク)

【駒込】
駒込—100 000 0 0 1
立教池袋—110 000 0 0 2
(七回コールド)

【王子総合】
王子総合—104 101 11 9
立教池袋—110 000 00 2
(八回コールド)

【紅】
石田—菅原【成】田中、大久保—小林 菅原(紅) 友清(紅) 河野、北井(成)

きのうの勝敗

＝いずれも1回戦

東大会

対戦相手	得点	打数	安打	塁打	エラー	コールド
神宮	1	0	0	0	0	0
駒込学園	8	5	0	0	0	7
【駒】	稲川、市来、川本—千田 増田(駒) 解良(駒) 谷掛、馬場崎、鎌倉(駒)					
王子総合	9	1	1	1	1	8
立教池袋	2	0	0	0	0	8
【王】	西出、菊池—関口【立】吉川、佐々木—橋本 岡田、三浦(王) 小牧、清野(立)					
紅葉川	5	5	0	0	0	10
成立学園	3	3	0	0	0	10
【紅】	石田—菅原【成】田中、大久保—小林 菅原(紅) 友清(紅) 河野、北井(成)					

均衡破る殊勲打

①：紅葉川と成立学園の

対戦は、九回を終えても両チーム無得点で、今大会初めてタイブレークが適用された。

十回表、走者一、二塁で始まった紅葉川の攻撃は、送りバントで両走者を進塁させて友清健太選手(2年)

球を強振すると、打球は左翼へ大きな弧を描いて外野手の頭を越えた。2走者が生還して均衡を破る一打となった。仲間から祝福を受けた友清選手は「またチャンスで活躍したい」と笑顔を見せた。

普段は物静かで、「初めて見た」と高橋勇士監督が驚くガッツポーズだった。一方、敗れた成立学園の田中は「2点を失い、気持ちが切れたというか、慌てて投げ急いできました」と

神宮(抜井規泰)